



作家
元国際線乗務員
黒木安馬

【プロフィール】高校時に米国留学後、早稲田大学を経てJAL国際線客室乗務員として30年勤務。世界初の「カラオケ・フライト」や「1万メートル上空・北島三郎機上コンサート」などを実現させる。千葉の自宅は1300坪の山林を開墾してプール、テニスコート、コンサートホール等を手作りする。現在、(株)日本成功学会社長として自己啓発や社員教育で講演中。著書に『ファーストクラスの心配り』、『あなただけの人格以上は売れない!』(プレジデント社)、『成「幸」学』(講談社)、『出過ぎる杭は打ちにくい!』(サンマーク出版)、『面白くなくちゃ人生じゃない!』(ロングセラーズ)、『小説・球磨川』(上下巻・ワニブックス)、『雲の上で出会った超一流の仕事の言葉』(あさ出版)などがある。
E-mail:yasuma@myad.jp URL:http://www.7b.biglobe.ne.jp/~sanpercent-club/

21世紀だ！———人生・農業リセット再出発 261

ニンガゴ

2*2=5 当たり前を超える創意工夫が成幸の素

夕 食7時から次の朝食7時まで12時間、朝食を抜くと昼食まで17時間も栄養補給なし。文科省調査で朝食をとる小学生と朝食抜き児童では、朝食組が20%高い学力差があった。エネルギー源は、脂肪・蛋白・炭水化物の3要素だが、炭水化物で作るブドウ糖 Glycogen だけを必要とする脳の消費量が身体エネルギー全体の4分の1を占める。グリコーゲンは肝臓に貯蔵される。脳を使う勉強で腹がすくのも道理、血糖不足は脳機能不全で鬱病、やる気も失せる。牛乳・ハム・卵のタンパク質を主に与えた組と、炭水化物・握り飯組のサッカー試合で、最初は牛乳組の勢いが良いが後半でバテ、ご飯組は持続力で盛りかえす。肉食獣は獲物を瞬発力で追い3分は走れないが、草食の牛馬は重い荷車を持耐力で黙々と牽く。

江 崎利一は1882年、佐賀県蓮池村生まれ。父の清七は薬種業だったが借金で貧しく、6人兄弟長男の利一は苦学して小学校を首席卒業した。19歳で父が他界して店を継ぐが生活は苦しく、25歳で大阪を訪れ、驚くほど安い薬品を買い集めて郷里で売りさばき大儲けして商売を知る。佐賀の小売店が瓶詰め葡萄酒を阪神から仕入れて空ビンを送り返して再販売しているのを見て、それなら酒を大樽で仕入れて自分でビン詰めすれば輸送料が省けると機械を購入して葡萄酒販売に乗り出し、大手業者になる。有明海は仙台・広島と並ぶ牡蠣の産地。37歳の利一が薬と葡萄酒を積んで自転車で走っていると、筑後川の船着き場で漁師たちが牡蠣をむいて鍋で茹でていた。吹きこぼれる煮汁を見て「高栄養源グリコーゲンは牡蠣に多く含まれる」という国立栄養研究所発表を思い出す。煮汁を持ち帰って九州帝大で分析した結果、グリコーゲン42%含有と判明。9歳の長男がチフスで死にかけて医者も匙を投げたが、牡蠣エキスを舂めさ

せると奇跡的に回復！ グリコーゲンを商品化しようと考え、病気になった者を治すより健康体にする予防が大切だと、育ち盛りの子供たちが喜ぶ菓子にしようと思ひらめく。キャラメル製造の試作を重ね、名を「GLICO」にする。すでにキャラメル販売をしていた森永や明治製菓との差別化で“栄養菓子”とし、形もハートにした。子供たちが駆けっこをして両手を挙げてゴールする姿を健康の象徴とデザインし、「ゴールインマーク」は道頓堀のシンボルになる。“博多まで”という大きな飴玉は、汽車に乗る時に口に入れると博多に着くまで長持ちしたので、グリコ1粒では何m走れるかとカロリー調整をして「一粒300m」の広告にする。38歳で事業展開を夢見て大阪に移住。無名のグリコは菓子店に置いてもらえなかったので三越に売り込むが相手にされず、根気強く通い詰めてついに三越の棚に並び、4年後に黒字計上、日産1万個を達成。赤いグリコ箱に小さなオモチャを付けて子供の“食べること”と“遊ぶこと”を満足させた「オマケのグリコ」は広く世に知られ、アーモンド粒を丸ごとチョコレートで包んだ“一粒で二度おいしい”は大ヒットし、1962年に国際モンドセレクションで一位受賞。

商 売は自分の為と世の中の為にもある、売る人と買う人の両方に利益がないと商売は成り立たない、利便を図ってもらったりの相互利得、立派な商売人とは社会に奉仕している人、事業奉仕即幸福、事業を道楽化して死ぬまで働き学び続け、息が切れたら事業の墓場に眠るを座右の銘とし、母子健康協会を設立して社会奉仕の実践を死ぬまで続け、1980年に97歳で天寿を全うする。

「万 策尽きたと思うな、自ら断崖絶壁の縁に立って、その時はじめて新たなる風は必ず吹く」と、利一と終生の友であった松下幸之助は言う。